

研究・調査報告書

報告書番号	担当
107	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>The effect of alcohol and gender on ambulatory blood pressure: results from the Baseline Double Exposure study.</p> <p>アルコールと性が 24 時間血圧に及ぼす影響 : Double Exposure 研究の Baseline 調査からの結果</p>	
執筆者	
Tobe SW, Soberman H, Kiss A, Perkins N, Baker B.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Hypertens. 2006;19:136-9.	
キーワード	
高血圧、24 時間血圧、アルコール、性	
要 旨	
<p>(目的) 飲酒習慣が 24 時間血圧に及ぼす影響を男女別に明らかにする。</p> <p>(方法) Baseline Double Exposure コホート研究のデータを用いて、飲酒習慣や性差が 24 時間血圧に及ぼす影響を正常血圧者と未治療の高血圧者において調べた。</p> <p>(結果) 対象者は 248 名 (うち女性は 135 名、54.4%) で、その平均年齢は 50.8 歳であった。回帰分析モデルを用いた解析にて、飲酒習慣、男性、加齢は収縮期血圧の上昇と有意に関係があった。一方、運動習慣は収縮期血圧の低下と有意に関係があった。全対象者においては、飲酒習慣 (10drinks 以上/週) は 24 時間血圧における収縮期血圧で 4.4mmHg、性交時の血圧における収縮期血圧で 7.1mmHg の上昇に相当する影響をもたらした。女性においては、飲酒習慣 (10drinks 以上/週) は 24 時間血圧における収縮期血圧で 8.4mmHg、性交時の血圧における収縮期血圧で 11.4mmHg の上昇に相当する影響をもたらした。性と飲酒状況を掛け合わせた交互作用項を分析モデルに加えてとき、24 時間血圧における収縮期血圧に対しては有意な交互作用がなかったが、性交時の血圧における収縮期血圧に対しては有意な交互作用がみられた。</p> <p>(結論) アルコールは収縮期血圧の上昇をもたらした。この影響は男性よりも女性において明らかであり、特に、性交時の血圧において顕著であった。</p>	